都城東から世界へ！ *To the world from Miyakonojo Higahi*

～日本の未来をささえ、グローバルな舞台で活躍できる『人材』を育成します～

本校が推進している『グローバル教育』を、海外での語学研修を経験した生徒や活躍中の ***English Teacher*** の感想や気持ちを通して伝えていくページです。

語学研修 Language training クローズアップ

『フィリピン語学研修で感じたこと』

普通科 3年生 川添 さくら さん（妻ヶ丘中出身）

私は約三カ月間のフィリピン語学研修に参加させていただきました。率直な感想は、参加して本当に良かったと感じています。 行く前までは、英語だけの異国生活を三カ月間送ることができるかどうか不安でした。実際に行ってみると、最初は英語でコミュニケーションをとることが難しく、戸惑っていたと同時に、相手に自分の伝えたいことを伝えることができないという事に対し、悔しい感情がありました。逆に、相手が何を伝えようとしているのか理解できませんでした。しかし、オフィスの手伝いやバディーシステムによりパートナーを付けてくれるプログラムにより、コミュニケーションの機会が増えていきました。また、フィリピンの方々は親切で、よく声を掛けてくれたおかげで、少しずつ話の内容が理解できるようになってきました。その時に、英語でコミュニケーションをする楽しさを味わうことができました。そして、２期生全員で助け合い最後まで乗り越えてきました。 この三カ月間、研修生だけで生活したことで、お金の大切さや、親への感謝、友人の温かさを改めて感じることができました。そして、日本がどれほど住みやすく、豊かな国であるかということを知ることができました。 これからも、フィリピンで出会った方々と交流していき、もっと英語に触れて、コミュニケーションができるようになりたいと思います。このような経験をさせてくれた両親に感謝します。ありがとうございました。

Learning English, A Must

English is commonly described as the universal language. This is because English is one of the most widely-spoken language in the world. Its use is not only been limited to native English speakers; the use of the English language has spread in the global arena. It is the language used in international fora, global business transactions, scientific and medical researches, etc. In the ever growing field of commerce, English language plays a bigger part. A graduate who can speak fluently in English has a greater chance to land a job compared to the the others who can not. Given these facts, however, some students still do not find the learning of English necessary and oftentimes, they find it a bore. As English teachers, it is our job to motivate students to learn English and to make them realize why learning the subject is very important. Below are the Filipino sensei's take on why learning English is a must:

1.English brings us to places. An employee who can converse in fluent English has a greater chance to be sent to various places for international meetings and conferences.

2.English helps us find a decent job. A "can speak fluent English" skill adds color on our resume helping us get the job that we want. In addition, having knowledge in English let us explore things that might be of help or benefit on our chosen careers.

3.English gives us power. If we happen to have a strong desire to travel and explore new places, English must be included in our survival kit. This is because English is the language of international interaction, it allows us to communicate with different peoples from different parts of the world.

4.English provides links among people. English serves as the medium in decision making and business transactions among branches of global corporations.

5.English is our golden ticket towards globalization. In a world made smaller by the onset of global business, travel, and advancement in technology, learning English is a must. Proficiency in English makes us globally proficient thus making us successful internationally.

These are but some of the many reasons why learning English is must. English helps us explore limits and grow globally.

世界で活躍する若者を育てます To the world from Miyakonojo Higashi

デュアル教育 職業教育による本物の人材育成

グローバル教育 グローバル化に対応出来る人材育成

礼節道徳教育 日本人としての基本的人格の育成

学校法人豊栄学園 都城東高等学校 〒889-1996 北諸県郡三股町大字樺山 1996 番地
TEL：0986-52-1010　FAX：0986-52-1011　E-mail:mh-hs-so@btvm.ne.jp

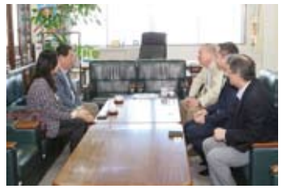
都城東高等学校広報誌　第 12 号　発行日：2015 年 7 月　発行：学校法人豊栄学園都城東高等学校

学校の最新情報はウェブサイト（http://miyako-higashi.ac.jp/）でチェックできます。

学校法人豊栄学園都城東高等学校
〒889-1996 北諸県郡三股町大字樺山 1996 番地　TEL：0986-52-1010　FAX：0986-52-1011
2015 年 6 月発行　No.012

Miyakonojo Higashi High School Newsletter

サモンテ氏と清水理事長



今後の展望を話し合いました

右から、ロデリック・サモンテ氏、チェリー・ビアコ氏・ブライアン副理事長

新たなグローバルプログラム始動

五月二十五日(月)に、フィリピンにあるバコロド市より、ロデリック・サモンテ氏、チェリー・ビアコ氏が本校へ訪れました。

サモンテ氏は元セント・ラサール大学（ＵＳＬＳ）の国際関係部署の所長を経て、現在はバコロド市のパートナーシップや国際関係のコンサルタントとして同市の発展へ積極的に関与し、Ｋａｓｄｙａバコロド開発事業団理事長などを務めており、ＵＳＬＳの代表として訪れたビアコ氏は、教育学部の学部長であり、博士号などの大学院課程も受け持っています。

両氏は、本校との持続的なパートナーシップと友好的な交流を行う為の活動を続けており、本校の教育課程や、三股町、都城市の素晴らしさに感銘を受け、今後さらにフィリピンと日本の架け橋となってバコロド市との関係も強化していきたいと語りました。

提携校となって一年となる同大学からは、本校の英語教育をサポートする為に三ヶ月間隔でスチューデント・ティーチャーを派遣してもらっております。

今後は、本校のグローバル教育の取組みの中で、バコロド市に焦点を当て、生徒達の明るい未来に繋げるための新しい教育プログラムを計画しております。両氏は、これからも生徒達の将来に対してサポートできるようなインパクトのある企画を提供していきたいとの抱負を語っておられました。

昼食は、調理科が和食料理を振る舞いました

全校生徒へ両氏を紹介するブライアン副理事長

Collaborative Programs Development with USLS

高校生留学制度

異なる学校生活や文化にふれ、より活動的な方法で学ぶ機会を両校の生徒に与えるために、単位認定が可能な USLS 付属高校への一年度程度の海外交換留学を行ないます。

語学研修制度

異英語の基礎を強化するために三ヶ月間の制度海外研修に参加することで英会話能力やコミュニケーション能力の強化や、英語環境に身を置く事で異文化に対する意識を向上させ、自信に繋がります。

教員交換制度

教員や教授を交換派遣する事で、教育技術の向上を目指し、異文化教育環境を取り入れた教育戦略の強化を行います。

デュアルクレジット制度

本校へ在学中に、高校の卒業証と大学の学位取得が取得できるよう、現在の単位の互換性を認め、生徒の高等教育に向けた成功へのサポートを行うための国際高大連携制度の構築を行います。

日本文化センター設立

バコロド市との国際的な異文化間交流を柔軟性のある友好的な交流を行う事を目指し、文化や伝統、スポーツ、教育等の情報や技術の交換が出来る機会を作れるよう、文化センターの設立を計画しています。

"For the students who will accomplish with faithfulness"

7月6日（月）～13日（月）わたり、アメリカのミネソタ州にある本校との提携校であるアップルバレー高校、イーストビュー高校から16名の生徒と2名の教員が国際交流に訪れました。本校との交流だけでなく、三股町教育委員会からの協賛により町内の小学校児童宅でのホームスティや小学校訪問を通して両国の文化を学び合うことで、世界に向けての視野を広げるグローバル活動として大きな一歩となりました。

滞在期間は、本校生徒との合同授業のほか、和食の調理実習、書道や生け花などの日本文化の体験、各小中学校へ訪問してのオリエンテーションや地域の夏祭りに参加し、日本の文化や学校に交流生達は目を輝かせていました。

週末には、交流生及びホストファミリーを招いての送別パーティが催され、和太鼓の演奏などが行われました。8日間を振り返りながらのひと時となり、交流生からのお別れのメッセージや歌が披露され、代表として挨拶したイーストビュー高校のダニエル君はテレビの取材に対し「日本での交流は毎日が楽しかった。ミネソタには山が無く、初めてみた山と、日本の自然はとても素晴らしいものでした。」と話していました。

13（月）日に行われた送別式では、本校の生徒による三味線演奏や各クラスからのプレゼントが送られ、中には別れに涙ぐむ生徒も見受けられました。アップルバレー高校のローラ先生は「日本は素晴らしい国で、都城東高校は素晴らしい学校でした。またお会いできることを楽しみにしています。ミネソタにも是非おいでください」とお別れのメッセージを送りしました。

福島大学 経営経済学類 奥山 修司教授 特別講話

7月16日（木）に、キャリア教育の一環として、福島大学の経済経営学類教授である奥山修司氏より、総合ビジネス科、普通科の1年生を対象に自分の将来に対するアプローチについての特別講話が行われました。

真剣に講話を聴く生徒達

奥山教授は、甲子園を目指し強豪野球部のある商業高校へ進学したが怪我で断念、目標を見失っていた氏は進級に必要なソロバン検定の勉強で毎日継続するうちに少しずつ上達していることに喜びを感じられるようになり、学ぶ事の楽しみに目覚めました。合格後は進んで昔の教科書を開いて復習を行い、真綿が水を吸い込むように実力をつけ学年トップとなるに至りました。進路に悩んでいた時期には、テレビで大学野球を偶然見たことで進学を志し、当時の先生に伝えたところ「冗談は今日だけにしなさい」と返された事をバネにより勉強に励み、在籍していた高校では不可能と言われていた早稲田大学に合格されました。

生徒達にとって身近な題材で語られる内容は心に残ったのではないでしょうか。

そのような自身の経験を元に、自分が目指したい進路に必要なことは、自分が好きになって学ぶ事が大切です。また人は平等ではなく、平等という言葉だけが存在しているだけで、人には差が存在します。だからこそ、自分の前にある壁を乗り越えるために人生はあります。そのためにも、5年後、10年後を考えて自分が大切にしたい事（進路や夢）を見つけること、そして、それを自分に素直になって決断することが必要であり、若いときの決断が将来を左右すると生徒達へ語りました。

最後に「10年後を見て自分のやりたいことを決断してください」と繰り返し伝えられました。特別講話に参加した生徒達は、メモを取るなど自分の進路をどのように判断するか真剣に考えていたようで、これから高校生活や将来への大きな糧となることを期待しています。

生徒を代表して普通科の MARNIEL 君が挨拶しました。

人生の決断に関するエピソード

奥山教授が、大学時代に大学院への進級を促されたときに、人に勉強を教えたい、それこそが自分が人に対して役立つことだと決断した奥山氏は、大学院で必要なドイツ語を下級生に混ざって必死で1から勉強し、進級を果たしたことをお話しされました。好きなことだけやるのでなく、自分が目指す大切なことを実現するための決断には、時には努力も必要だと仰られました。